

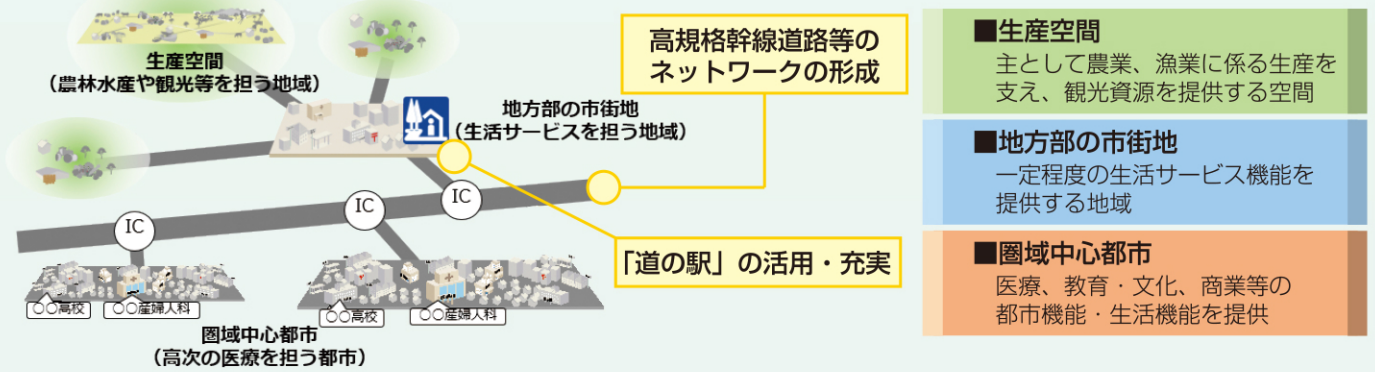
人が輝く地域社会の形成

第8期北海道総合開発計画(平成28年3月29日閣議決定)に基づき、「世界の北海道」のキャッチフレーズの下、北海道の強みである「食」と「観光」を担う地方部の「生産空間」を支えるための重層的な機能分担と交通ネットワークの強化、農林水産業の競争力・付加価値の向上、世界水準の観光地の形成等に重点的に取り組みます。

北海道型地域構造の保持・形成に向けた定住・交流環境の維持増進

全国よりも10年先んじて人口減少や高齢化が進展する中、北海道の強みである「食」や「観光」等を担う「生産空間」を維持・発展させる施策を推進します。

北海道型地域構造のイメージ：三層から成る「基礎圏域」

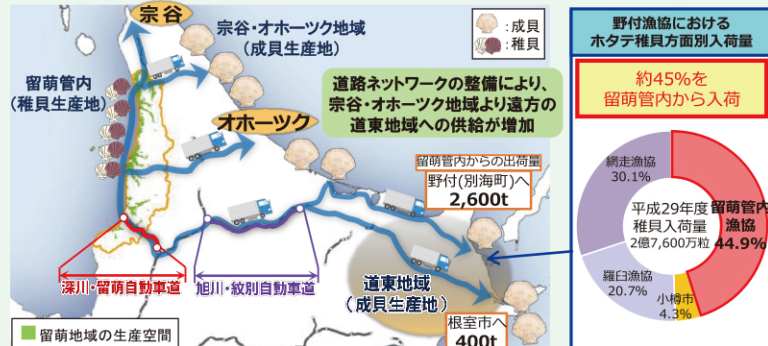


地域間の広域な物流を支える高規格幹線道路ネットワーク等の形成

北海道内外の人流や物流の拡大、地域・拠点間の連携を確保するため、高規格幹線道路等のネットワークの構築を推進します。

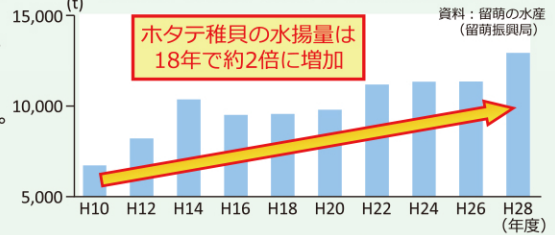
深川・留萌自動車道(2019年度全線開通予定)や旭川・紋別自動車道の整備により、留萌管内のホタテ稚貝を、より遠方の成貝生産地である道東地域への安定供給が可能となり、北海道産ブランドであるホタテの生産を支えています。

留萌管内のホタテ出荷状況

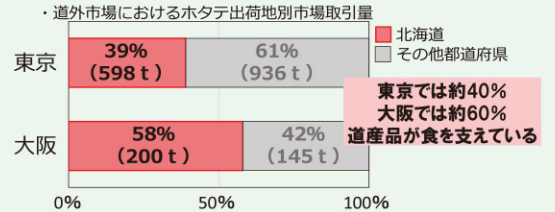


※留萌振興局のみ表示 ※生産空間：農林水産業、観光業を担う地域
資料：留萌開発建設部調べ(平成29年度、平成30年度)

留萌管内におけるホタテ稚貝水揚量の推移



日本の食を支える北海道産ブランド



「生産空間」の生活を支える「道の駅」の活用・充実

生産空間を含む地方部を支える都市機能・生活機能の維持・確保を図るため、「道の駅」を活用した自動運転サービスの社会実装に向けた取組や子育て応援施設(屋根付き優先駐車スペースの確保等)の整備等を推進します。

道の駅を拠点とした自動運転サービス実証実験

高齢化が進行する生産空間において人流・物流を確保するため、道の駅「コスモール大樹」を拠点とした自動運転サービス実証実験を2017年度より実施。2019年度は、ビジネスモデル構築のため、長期間(1~2ヶ月程度)の実験を実施し、社会実装に向けた取組を推進します。

自動運転サービス実証実験の取組み状況

- 自動運転車両により町内の移動を支援
- 自動運転車両への貨客混載により地元農産物の配送を支援

